

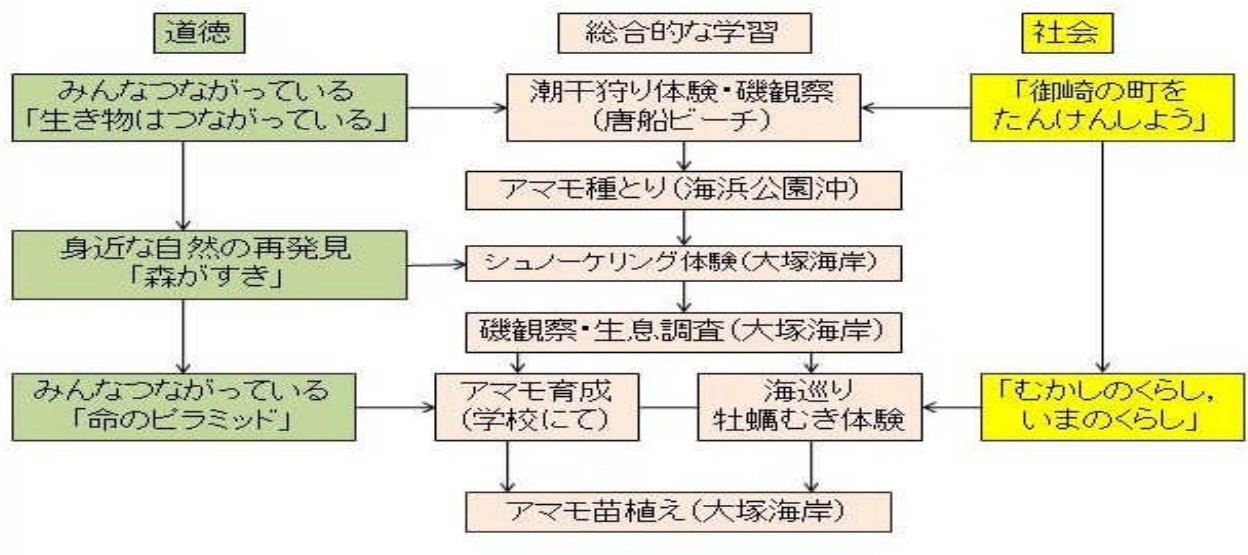
テーマ「御崎の海ってどんな海？」

1 はじめに

本校区は赤穂市の南東部に位置しており、瀬戸内海国立公園赤穂御崎に面している。昔は塩田が広がっていたが、現在は塩田は埋め立てられ住宅地になっている。そのため、他地域から移り住んできた人々が新しい風土をつくり出している。現在、全校児童349名のうち、多くの児童は新しくできた地域から通学しており、海岸近くに住んでいる児童は1割あまりである。そのため、児童は海で活動した経験が少なく、御崎の海は、子どもたちの遊び場、生活経験を豊かにする場とは言い難く、自然環境の大切さにもあまり気づいていないのが現状であった。

2 1年間の取組

テーマ「御崎の海ってどんな海？」



総合的な学習の時間を中心に、社会科とリンクさせたり体験学習で気づいたことや感じたことを道徳で補充・深化・統合させたりし、横断的・総合的な学習になるように計画した。

まず、「赤穂海っ子倶楽部」の方から「赤穂の海」について話を聞き、活動を始めた。

(1) アマモの育成

①アマモ種採り (6月11日)

瀬戸内海最大の自然アマモ群生地である赤穂海浜公園沖にてアマモの種を採取した。アマモをかき分けた時に魚の稚魚が現れ、驚きながら一つ一つ手作業で種採りをした。また、アマモの茎はかじると甘く、自然のおいしさを感じることもできた。



②アマモ種まき (10月29日)

西宮にある「アマモ種子バンク」の方の指導で、児童達が各自育てるアマモの種まきをした。自分たちで採った種が戻ってきたことに喜びを感じながら種をまく姿が見られた。

③アマモ移植 (2月18日予定)

児童が育てた苗をダイバーの方が大塚海岸に一苗ずつ移植し、それを見学し学習する予定である。

(2) シュノーケリング体験

①講話

海が美しさと怖さの二面性をもっていることを「赤穂海っ子倶楽部」の方から聞き、スライドで写真を見ながら学習した。

②プール実習

本校プールでシュノーケルを付けて、ダイバーによる泳ぎ方の講習を行った。

③ダイバーと教師による下見

前日に大塚海岸でシュノーケリングをして、児童の観察ポイントを探しておいた。

④シュノーケリング体験



児童とダイバーがマンツーマンでシュノーケリング体験をした。保護者の監視や補助の下、コウイカの卵、イトマキヒトデ、ムラサキウニ、ハゼの稚魚など多くの生き物に出会うことができた。その後の磯観察では、瀬戸内海では珍しいタツノオトシゴを見つけ、ダイバーと共に喜びを感じることができた。

⑤貝殻標本作り

海岸で拾った貝殻で標本作りをした。自分で貝殻の名前を調べ、思い出に残る標本ができた。

(3) 海巡り

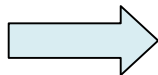
「森・川・海」のつながりを感じ取らせるため、市内の海岸を巡り、赤穂の漁業について学習したり海岸の様子の違いや夏と冬の海の色の違い、水の冷たさなどを体感したりすることができた。海岸では、自らゴミを集める児童の姿も見られた。

最後に、福浦漁港にて牡蠣むき体験をした。小さな漁村の暖かい雰囲気の中で牡蠣むきの作業を見学した後、実際に体験することができた。最初はうまく身が取れなかった児童も夢中で作業をしているうちにうまく取れるようになり、漁協の方と「大人になったらここで働く!」「そうか。おっちゃん、まっとうで。」というやりとりも見られた。

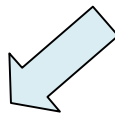
翌日、自分たちでむいた牡蠣と坂越の海で取れた殻付き牡蠣を七輪で焼いたり、牡蠣の味噌汁を作ったりした。多くの保護者も参加し、親子でふれ合う中、心温まる雰囲気の中で牡蠣をいただいた。お腹も心も温かさでいっぱいになった一日であった。

3 子どもの声

海って楽しいね
生き物がいっぱいいるね
育ててみたいな



生き物を育てるのは難しいね
海の生き物は海にいるのが一番だね



御崎の海をスナメリの住める海にしたい
ゴミを捨てない
アマモを増やそう



いろんな人に御崎の海を知ってもらおう

一年間、海の学習をしてきて願いを自分たちでこのような願いを実現させたいと思うようになった。また、児童の成長として一番強く感じたことは、命について考えるようになったことである。「どんな生き物にも命がある」「自分の命も大切にしたい」「家族も大切にしたい」「身近な御崎の海を大切にしたい」と、言うようになった。保護者からも「子どもの心が豊かになった」「自然の中で得たものが大きかった」などの感想も聞くことができた。

「学校・家庭・地域」が一つになることの大切さを実感した一年であった。